



【参考】和歌浦図屏風（館蔵）  
〈展示番号 12〉

令和 3 年 6 月 10 日	
資料提供	
担当課（室）	県立博物館 学芸課
担当者	主査学芸員 坂本亮太
電話	073-436-8670（代表）
E-mail	admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp

## 博物館で寺社めぐり！

### 企画展「聖地の風景 ―寺社絵図の世界―」の開催について

和歌山県立博物館では、令和3年（2021）6月12日（土）から同年7月11日（日）の会期で、企画展「聖地の風景―寺社絵図の世界―」を開催します。この企画展では、高野山から熊野三山まで和歌山県内をぐるっと一周するようなかたちで寺社を取り上げ、室町時代～明治時代頃の寺社の風景が描かれた図面を紹介します。展示資料の点数は、全32点（うち和歌山県指定文化財1件1点、新宮市指定文化財1件2点）です。

### 企画展「聖地の風景 ―寺社絵図の世界―」

#### 【概要】

紀伊国には、高野山や熊野三山、根来寺や粉河寺など、全国的にもよく知られた有名な寺社・霊場がいくつもあります。その一方で、昔は大きな寺社であったものの、現在ではあまり知られていない、もしくは姿を大きく変えた寺社・霊場などもあります。さらには、各村や町にも、身近な寺院や神社はたくさんありました。このような寺院や神社の様子を詳しく伝えてくれるのが、寺社絵図と呼ばれる寺社の建物や風景を描いた図面です。

参詣者の誘致や案内のため、盛時の様相をアピールするため、建物の建て直しをするため、寺社で行われる行事のしつらえや人の動きをあらわすためなど、様々な意図や目的で寺社絵図は制作されました。特に寺社絵図には、現在とは異なる建物や景観などが描かれている場合も多く、昔の景観や変遷などを知ることができる貴重な資料となっています。

この企画展では、寺社絵図を中心に、明治時代以前における寺社の風景を紹介いたします。往時の景観と現在の景観とを重ねあわせながら、それぞれの寺社がたどった歴史を確認するとともに、和歌山の聖地・霊場をめぐっていただけたらと思います。

【会期】令和3年（2021）6月12日（土）～7月11日（日） ※休館日：月曜日

【主催】和歌山県立博物館

【展示会場】和歌山県立博物館1階 企画展示室

※常設展「きのくにの歩み―一人々の生活と文化―」と併催します。

【開館時間】午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【入館料】一般280円（230円）・大学生170円（140円）

（ ）は20名以上の団体料金、高校生以下、65歳以上、障害者手帳の交付を受けている方、県内の学校に在学中の外国人留学生は無料

※7月4日（日）は入館料無料

【担当者】県立博物館 主査学芸員 坂本亮太

## 📖 みどころ1 大画面なのに細部にもこだわり！ 高野山上と山麓の風景

「高野山及び周辺図」〈展示番号 1〉は、高野山上と山麓、参詣道沿いの様子を大画面に描いた絵図です。非常に大きな画面に描かれていますが、細かな部分にも目配りして描かれています。例えば、奥之院に建つ石塔には誰の墓碑であるのかの注記があり（写真 1 左）、寺院には名称のほかグループの色分けなどもなされています。また、紀の川では石塔の部材を分解して運ぼうとする様子や、船を上流に引き上げる様子（写真 1 右）なども描かれています。



【写真 1】高野山及び周辺図（海照寺蔵）〈展示番号 1〉 ※部分

## 📖 みどころ2 熊野那智大社の絵図群 熊野那智山の変遷

今回の展示では、熊野那智大社に関わる様々な絵図を 7 点展示いたします〈展示番号 24～30〉。熊野那智大社全体の風景を描いたもの（写真 2）から、有力御師実方院の屋敷の間取りを描いたもの（写真 3）、神仏分離が行われた激動の明治時代初期の様相を描いたものなど、多様な絵図を紹介します。江戸時代～明治時代初めごろにかけての熊野那智大社門前の景観の様相とその変遷を絵図からご紹介します。



【写真 2】那智山図（個人蔵）※部分 【写真 3】実方院百分之一図（実方院蔵）  
〈展示番号 24〉 〈展示番号 30〉

---

※詳しくは別添チラシ・展示資料目録をご参照下さい。

展示資料目録はホームページ上でもご覧いただけます。

ホームページ <https://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

◆駐車料金（博物館利用の方は最初の 2 時間無料、以後 30 分ごとに 100 円追加）